

# 事故を防ぐために

## ① パワーウィンドウの操作は必ず安全確認をしてから行いましょう

同乗者の状況を確認せずにパワーウィンドウを操作したためにけがを負う場合があります。操作するときは同乗者の安全を十分に確認しましょう。

## ② 低年齢の子どもには、パワーウィンドウを操作させないこと。また、子どもが同乗する際は、パワーウィンドウのロックスイッチを活用しましょう

けがを負った年齢は、10歳未満と低年齢の子どもが圧倒的に多くなっています。また、子どもが自分で操作したために事故にあった事例も報告されています。

子どもにパワーウィンドウの操作をさせてはいけません。また、子どもが同乗するときはパワーウィンドウのロックスイッチを活用しましょう。

## ③ パワーウィンドウの操作によっては、挟み込み防止機能が働かない場合もあるので、取扱説明書で操作をよく理解しておきましょう

挟み込み防止機能が装備されていても、スイッチを引き続けるとウィンドウが反転せず、挟まれたままになってしまったり、指を挟んだ際に挟み込み防止機能が働かなかった事故事例もみられることから、取扱説明書を読んで操作をよく理解しておきましょう。

## ④ 購入の際は、全席に挟み込み防止機能が装備されているか検討しましょう

挟み込み防止機能はほとんどの乗用車に装備されていますが、車種やグレードによって装備状況は異なります。挟み込み防止機能は安全性の観点から有効であることから、乗用車を購入する際は装備状況を検討すると良いでしょう。

●本内容は、独立行政法人国民生活センターホームページ内の「くらしの危険」コーナーにてダウンロードできます。

<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>

●本内容の詳細は、独立行政法人国民生活センターホームページに掲載しています。

<http://www.kokusen.go.jp/>

「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。

特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。

商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。

無断転載はお断りいたします。



独立行政法人  
**国民生活センター**

〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1 TEL.042(758)3165 ●2012年9月発行

デザイン＝独立行政法人国民生活センター商品テスト部

# くらしの危険

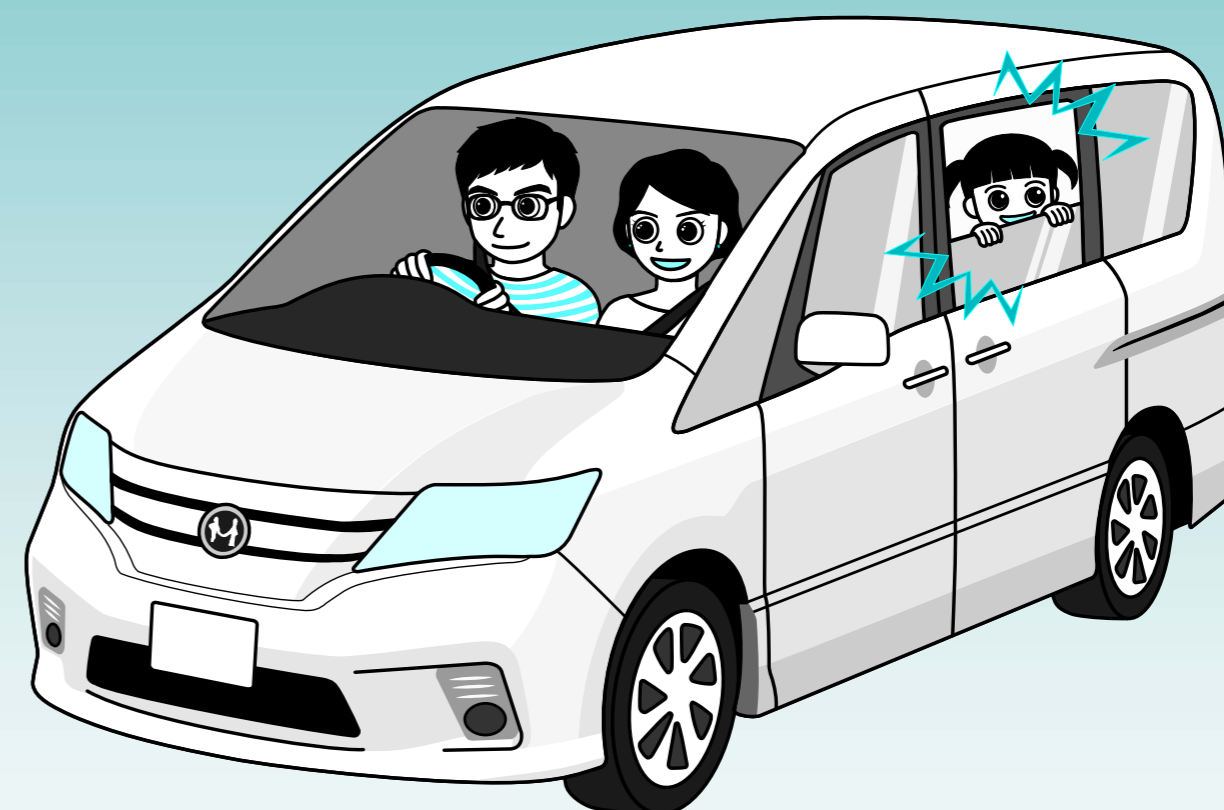
Number

309

## 車のパワーウィンドウによる事故

小さなお子さんのいる家庭では車でのお出かけが大変便利です。家族向けの車の種類も多くなりました。しかし、車のパワーウィンドウに子どもが指を挟んでしまうという事故が依然起きています。

子どもを車に乗せている時には注意が必要です。



## 車のパワーウィンドウによる事故

PIO-NETや医療機関ネットワーク\*には、パワーウィンドウ（車の自動開閉窓）に子どもが指を挟まれたという事故が寄せられています。

事故の多くは、大人が同乗している子どもの状況を確認せずに操作を行ったために起きています。中には指を切断したという重症の事故もあります。

\*生命または身体に被害を生じる消費生活上の事故情報を参画医療機関から収集し、国民への注意喚起などに活用することを目的として実施している事業。消費者庁と国民生活センターの共同事業であり、2010年12月より情報収集を開始した。

# こんな事故が起きています

- ケース 1** 子どもがパワーウィンドウのスイッチをいたずらして手を挟んだ。  
(5歳 女兒)



- ケース 2** 娘がパワーウィンドウに右手中指を挟み指先を欠損した。  
挟み込み防止機能が指を感知できないのは問題ではないか。(1歳 女兒)

- ケース 3** 走行中、パワーウィンドウを閉め息子の中指を骨折させた。  
不注意ではあったが挟み込み防止機能が役に立っていない。  
(9歳 男児)



- ケース 4** 息子が車の助手席のパワーウィンドウに人差し指を挟み切断した。(2歳 男児)

- ケース 5** パワーウィンドウの安全装置が働かず、指を骨折した。(20歳代 女性)

## パワーウィンドウの安全性についてテストしました

国民生活センターでは1999年、2003年の2回、パワーウィンドウの安全性についてテストを実施し、消費者への注意喚起と業界への要望を行いました。しかし、現在も事故が続いていることから、2010年度に再度、現行の車種を中心に安全装置等の装着の実態を明らかにするとともに、パワーウィンドウの閉まる時の力や安全装置の動作等を調べました。また、その結果から業界へ要望を行い、業界団体が対応を行っています。

### 主なテスト結果

- 安全装備の有無
  - ・集中開閉スイッチとロックスイッチは全ての銘柄についていたが、ロック中の動作は一部の車種で異なっていた。
  - ・運転席には全銘柄とも挟み込み防止機能が装備されていたが、全席に装備されていたのは26銘柄中10銘柄であった。
  - ・4mm厚の金属板や太さ12mmのダミー人形の指を挟んだところ、挟み込み防止機能を装備したほとんどの銘柄はウィンドウが反転し機能が働いたが、1銘柄は反転しないときもあり動作が不安定であった。
- パワーウィンドウが閉まる時の力は若干大きくなっていましたが、挟み込み防止機能が働くときの力は前回のテストよりも小さくなっていました。
- 国産車の現行車種でパワーウィンドウが装備された全席に挟み込み防止機能が装備されているのは196車種中65車種であった。

〈テストの詳細は [http://www.kokusen.go.jp/test/data/s\\_test/n-20100721\\_1.html](http://www.kokusen.go.jp/test/data/s_test/n-20100721_1.html)〉

### 業界への要望

- 挟み込み防止機能を全席に装備するとともに、ウィンドウを閉める力はできる限り小さくするよう改めて要望する。
- スイッチを引き続けても挟み込み防止機能が働くよう要望する。
- 挟み込み防止機能が確実に働くよう要望する。

### 業界の対応

一般社団法人日本自動車工業会より(2010年8月10日)

- テスト結果ならびに当業界への要望について、会員各社に対し、周知した。
- 各社においては、スイッチの形状、集中ロック機構、挟み込み防止装置など、自動車使用者の安全に配慮した対策をとってきているところだが、今後の対応の参考として活用したい。
- 当会の小冊子「セーフティカーライフ」やホームページ「安全運転講座」、ならびに雑誌への広告掲載などを通じて車の取り扱い全般に関する啓発活動を行っており、パワーウィンドウに関わる事故の未然防止に向けても、引き続き自動車使用者への啓発に努めていく。